

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年5月20日現在

機関番号：32651

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21590714

研究課題名（和文） 医療コミュニケーションにおける医師のジェンダーに関する研究

研究課題名（英文） Physician Gender in Medical Communication

研究代表者 野呂幾久子（Noro Ikuko）

東京慈恵会医科大学・医学部・教授

研究者番号：10242752

研究成果の概要（和文）：

日本の医療面接場面におけるジェンダー、コミュニケーション、患者満足度の関連を明らかにすることを目的とした。3種類の研究の結果、1) OSCE 医療面接場面において、医学生のジェンダーは医学生、女性模擬患者のコミュニケーション・スタイルに影響を与えていた、2) 総合診療科の外来診療場面においても、医師、患者ジェンダーは医師、患者自身および相手のコミュニケーション・スタイルに影響を与えていた、3) 患者満足度に影響を与える医師のコミュニケーション・スタイルは、医師と患者のジェンダー組み合わせによって異なった、などの結果を報告した。

研究成果の概要（英文）：

The aim of this study was to investigate the relationships among physician and patient gender, communication style, and patient satisfaction in Japan. The results showed that: 1) communication style of medical students and female standardized patients were affected by medical students' gender in an objective structured clinical examination (OSCE), 2) communication style of physician and patients were affected by physician and patient gender and their combinations during the first primary care visits, 3) the relationships between physician communication style and patient satisfaction were different among physician-patient gender combinations during the first primary care visits.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	800,000	240,000	1,040,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
2011年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	1,800,000	540,000	2,340,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：社会医学・公衆衛生/健康科学

キーワード：コミュニケーション、ジェンダー、RIAS、患者満足度

1. 研究開始当初の背景

欧米では、診療場面のコミュニケーション、ジェンダー、患者満足度の間の関連について、多くの研究が行われている。その結果、医師のジェンダーは医師のコミュニケーション・スタイルと関連しており、女性医師は男性医師に比べて、肯定的な発話や感情に関する発話、生活・心理といった医学以外の問題についての会話が深いなどの差異が報告されている。このようなコミュニケーション・スタイルは患者満足度と関連すると言われていることから、患者は男性医師より女性医師に対してより満足すると考えられるが、実際にこの点について調べた研究は、患者は女性医師により満足する、男性医師により満足する、医師ジェンダーと患者満足度には関連がない、など様々な結果を示している。これは、診療場面におけるジェンダー、コミュニケーション・スタイル、患者満足度の関連についてより詳細に調べる研究の必要性を示唆している。

一方国内では、医療コミュニケーションをジェンダーの観点から取り上げた研究は、これまでのところ見られない。その背景には、ジェンダーに限らず医療コミュニケーションの研究自体が、日本では緒についたばかりで研究数が少ないこと、女性医師の数が少なく女性医師の診察を受ける患者の数は限られていたこと、などが考えられる。しかし、近年女性医師の数は増加している。また現在の深刻な医師不足の問題を考えると、女性医師は今後日本の医療において、より重要な位置を占めると予測される。日本でも医師ジェンダー、あるいは患者ジェンダーはコミュニケーションに影響を与えているのか、そしてそれはどのように患者満足度といったアウトカムに結び付くのか。このような問題を実

証的に解明することが、現在の日本の状況で強く求められている。

2. 研究の目的

本研究は、日本の医療面接場面における医師（医学生）、患者（模擬患者：SP）のジェンダーとコミュニケーション、患者満足度の関連を明らかにすることを目的に行った。具体的には次の3点である。

目的 1) 客観的臨床能力試験（OSCE）医療面接場面において、医学生のジェンダーはSPとのコミュニケーション・スタイルに影響を与えるのか

目的 2) 総合診療科の医療面接場面において、医師および患者のジェンダーは、患者のコミュニケーション・スタイルに影響を与えるのか

目的 3) 総合診療科の医療面接場面において、医師と患者のジェンダー組み合わせによって、患者満足度に影響を与える医師のコミュニケーション・スタイルは異なるのか

3. 研究の方法

目的 1)

対象場面：2005年度、2006年度に名古屋大学医学部で実施された4年次OSCE医療面接。

対象者：受験者のうち研究協力への同意が得られた医学生82名（男子53名、女子29名）およびSP8名（全員女性）。

方法：①全員から研究協力への同意を得た。②研究代表者野呂幾久子と連携研究者阿部恵子が、面接を録画したビデオ映像を見て、医学生、SPそれぞれのコミュニケーション

を医療コミュニケーション分析方法である Roter Interaction Analysis System (RIAS) を用いてコーディングした。③医学生または SP のカテゴリー・グループごとの発話数および総発話数の平均順位が、医学生のジェンダーによって有意に異なるのか否かを、ノンパラメトリック検定を用いて解析した。

目的 2)

対象場面：2009 年 4 月～2010 年 10 月に、東京都内の 3 か所の医療機関の総合診療科で行われた医療面接場面。

対象者：上記医療機関に勤務する医師 11 名（男性 6 名、女性 5 名）、およびその初診外来患者 103 名（男性 53 名、女性 50 名）。

方法：①全員から研究協力への同意を得た。②診療中の会話を ICレコーダーで録音した。③診療終了後、患者が患者満足度調査（日本語版 Medical Interview Satisfaction Scale (MISS)）に回答した。④研究代表者野呂幾久子と研究協力者黒澤聡子が、録音した音声聞き、医師、患者それぞれのコミュニケーションを RIASでコーディングした。⑤診療時間、医師および患者の総発話数、医師言語支配度、医師および患者のコミュニケーション・スタイルが、医師や患者ジェンダーによって異なるか否かを調べるために、第一要因を医師ジェンダー、第二要因を患者ジェンダーとして、二元配置分散分析を行った。その際、診療時間、医師ID、患者年齢を制御した。

目的 3) 目的 2) と方法④まで同様。

方法：⑤医師、患者ジェンダー組み合わせによって患者満足度に与える医師のコミュニケーション・スタイルが異なるのか否かを調べるために、診療時間、医師ID、患者年齢を制御した上で、一元配置分散分析を行った。

4. 研究成果

目的 1)

- ① 医学生のコミュニケーションには 2 点の違いが見られた。女子医学生の方が男子医学生より、感情表出の発話、特に共感の発話、および開かれた質問が多かった。
- ② SP のコミュニケーションには 3 点の違いが見られた。女子医学生との面接の方が男子医学生との面接より、SP の社交的会話、医学的情報提供、総発話数が多かった。
- ③ 以上の結果から、日本の OSCE 医療面接場面においても、医学生のジェンダーは医学生および SP のコミュニケーション・スタイルに影響を与えていることが示された。また、その影響は欧米におけるこれまでの影響と類似していた。
- ④ この研究の成果は、原著論文「客観的臨床能力試験 (OSCE) 医療面接におけるジェンダーとコミュニケーション・スタイルの関係」として、2010 年に、学会誌『医学教育』に掲載された。

目的 2)

- ① 女性医師は男性医師に比べて言語支配度が低く、患者への指示が少なかった。
- ② 女性患者は男性患者より医学的状態・治療方法についての質問を多く行い、男性患者より多くの医学的情報を男性医師から提供された。
- ③ 医師は男性患者より女性患者に対して、より頻繁に感情表出の発話を行い、女性患者は男性医師との診療より女性医師との診療においての方が、感情表出の発話を多く行った。
- ④ 女性医師は男性患者より女性患者に対して、生活・心理的なことについての情報

を多く提供し、女性患者も男性医師との診療より女性医師との診療においての方が、より多くの情報を提供した。

- ⑤ 患者は男性医師との診療より女性医師との診療においての方が、社交的会話の回数が多かった。
- ⑥ 以上の結果から、日本の総合診療科の初診外来場面においても、医師、患者のジェンダーは、医師、患者自身だけでなく相手のコミュニケーション・スタイルにも影響を与えていることが明らかになった。
- ⑦ この研究の成果は、2010年の第2回日本ヘルスコミュニケーション研究会にて、「言語的コミュニケーションの量的評価方法：RIASを用いたコミュニケーション・ジェンダー・満足度の分析」として口頭発表を行った。

目的 3)

- ① 女性医師－女性患者ペアでは、医師が肯定的雰囲気をつくる発話や感情表出の発話を行うと患者満足度が向上する傾向が見られた。しかし、その他のペアでは低下する傾向が見られた。
- ② 男性医師－男子患者ペアでは、医学状態や治療方法に関する質問および生活習慣・社会心理的なことに関する質問が多いと患者満足度が低下した。
- ③ 男性医師－女性患者ペアでは、指示・方向付けの発話が多いと患者満足度が低下した。
- ④ 女性医師－男性患者ペアでは、生活習慣・社会心理的なことに関する情報提供が多いと患者満足度が低下した。
- ⑤ 以上の結果から、患者満足度に影響を与える医師のコミュニケーション・スタイルは医師と患者のジェンダー組み合わせ

によって異なることが示された。

- ⑥ この研究の成果は、2012年9月のInternational Conference on Communication in Healthcare” (St. Andrews, Scotland, UK) において、”Correlation between Physician Communication Style and Patient Satisfaction for Different Combinations of Patient and Physician Gender in Japanese Primary Care Visit”として、ポスター発表が予定されている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計6件)

- 1) 野呂幾久子、シリーズ：指導医のために：プロフェッショナルリズム：医療コミュニケーションの一つとしてのインフォームド・コンセントのための説明文書、日本内科学会誌、査読有、101巻、2012、512-516
- 2) 藤崎和彦、野呂幾久子、石川ひろの、田口則宏、小川哲次、医療コミュニケーション研究の概論－そして量的研究を進めるために、日本ヘルスコミュニケーション学雑誌、査読有、vol.2、No.1、2012、5-11
- 3) 野呂幾久子、邑本俊亮、インフォームド・コンセントのための説明文書のわかりにくさと不安感－プロトコル分析による研究、Ars Linguistica (Linguistic Studies of Shizuoka)、査読有、vol.17、2010、95-113
- 4) 野呂幾久子、邑本俊亮、IC説明文書のわかりやすさと情緒的配慮の記述が患者アウトカムに与える影響－大学生を対象とした調査、日本保健医療行動科学会年報、査読有、vol.24、2009、102-116

- 5) 野呂幾久子、大場理恵子、太田昌宏、医療コミュニケーションと日本語の教育－東京慈恵会医科大学の取り組み、日本ヘルスコミュニケーション学雑誌、査読有、vol.1、2010、13-17
- 6) 野呂幾久子、阿部恵子、伴信太郎、客観的臨床能力試験（OSCE）医療面接におけるジェンダーとコミュニケーション・スタイルの関係、医学教育、査読有、vol.41、2010、1-6

〔学会発表〕（計4件）

- 1) 野呂幾久子、**IC**における医師の説明のわかりやすさ、態度が患者の理解に与える影響、医療コミュニケーションシンポジウム、2011年10月2日、東京
- 2) 野呂幾久子、言語的コミュニケーションの量的評価方法：RIASを用いたコミュニケーション・ジェンダー・満足度の分析、第2回日本ヘルスコミュニケーション研究会、2010年9月17日、京都
- 3) 野呂幾久子、邑本俊亮、Correlation of Comprehensibility of Japanese Informed Consent Documents with and without Affective Verbal Expressions and Patient Outcomes、International Conference on Communication in Health、2009年10月4日、Miami、USA
- 4) 野呂幾久子、大場理恵子、太田昌宏、医療コミュニケーションと日本語の教育、第1回日本ヘルスコミュニケーション研究会、2009年7月10日、東京

〔図書〕（計5件）

- 1) 野呂幾久子、阿部恵子、石川ひろの、三恵社、医療コミュニケーション分析の方法－The Roter Method of Interaction Process Analysis System（RIAS）、第二版、2011、72

- 2) 石川ひろの、阿部恵子、野呂幾久子、高山智子、篠原出版新社、機能的アプローチからみた医療コミュニケーション、医療コミュニケーション研究会編、医療コミュニケーション－実証研究への多角的アプローチ、2009、58-82
- 3) 野呂幾久子、凡人社、医師－患者のコミュニケーション、水谷修監修、河野俊之、小河原義朗編、水谷修喜寿記念論集 日本語教育の過去・現在・未来 第4巻 音声・音声教育、2009、165-185.
- 4) 野呂幾久子、南山堂書店、文書によるコミュニケーション、日本医学教育学会基本能力教育委員会 倫理・行動科学小委員会／準備教育小委員会編、医療者のための人間学、2009、51-53
- 5) 野呂幾久子、メジカルビュー社、なぜ医師と患者のコミュニケーションは行き違うのか、福島統編、改訂2版 基礎臨床技能シリーズ1巻 医療面接技法とコミュニケーションのとり方、2009、20-29

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

名称：
 発明者：
 権利者：
 種類：
 番号：
 出願年月日：
 国内外の別：

○取得状況（計0件）

名称：
 発明者：
 権利者：
 種類：
 番号：
 取得年月日：
 国内外の別：
 〔その他〕
 ホームページ等
 なし

6. 研究組織

(1)研究代表者

野呂幾久子 (NORO IKUKO)

東京慈恵会医科大学・医学部・教授)

研究者番号：10242752

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

阿倍恵子 (ABE KEIKO)

名古屋大学・医学(系)研究科(研究院)・助教

研究者番号：00444274

松島雅人 (MATSUSHIMA MASATO)

東京慈恵会医科大学・医学部・准教授

研究者番号：50246443